

# 輪島市立鳳至小学校 令和4年度学校評価書（中間並びに最終評価）

項目	具体的な取組	主担当	評価の観点	達成度評価基準 (肯定評価 A+B)	学校自己 評価 (中間)	取組及び課題解決 に向けた改善策	学校関係者評価（中間）		学校自己 評価 (最終)	取組及び課題解決に向けた 改善策	学校関係者評価（最終）	
							改善策の 適切さ	意見及び改善策			改善策の 適切さ	意見及び改善策
主体的に活動しようとする姿勢づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア教育の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ、あきらめない、後片付け（3あ運動）</li> <li>・生活年間目標を通した集団づくり</li> <li>・生徒指導の三機能をいかした諸活動の推進</li> <li>・情報共有と各アンケートをいかした迅速な対応（生徒指導便り・職員朝終礼の活用）</li> <li>・外部機関との連携</li> </ul> </li> <li>発達支援室ケース会議</li> </ul>	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が互いに助け合い、協力して活動する場をつくるとともに、友だちとの温かな関係づくりにつながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□児童アンケート「学校は楽しい」と答えた児童の割合</li> </ul> <p>A:85%以上 B:80%以上 C:80%未満</p>	<p>低 97%A</p> <p>中 95%A</p> <p>高 95%A</p> <p>全 96%A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日々の観察、月一回の学校生活アンケート、年三回のいじめアンケートを柱に、いじめや、子ども達の困り感の早期発見、早期対応に努める。</li> <li>○定期及び機会を捉えた教育相談を柱に、子ども達の心に寄り添う時間を大切にしている。</li> <li>○生活年間目標を通した集団づくりを行う。その際、各学年で現在の子供達の実態に即した、より具体的な目標を設定し、実行する。</li> <li>○特別活動を柱に、子供達が自然に助け合ったり協力したりできる場の設定を行う。</li> </ul>	A(80%) B(20%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校としてできる限りの取組をいただいています。ありがとうございます。保護者懇談会の参加率向上により、家庭での見守りも浸透していくとよいと思います。大変だと思えますが、学級活動・授業・給食・清掃・休み時間など日常の学校生活を通して児童の人間関係や力関係の把握に努めていただきたいと思います。特別活動に関連して、児童が主体的に参画するいじめ防止に向けた方策の話合い活動の取組みの推進。例えば代表委員会が中心となり、いじめ撲滅に向けての方策を議論したり、各学級へ議題を下ろし、学級での議論を促したりすることで児童が主体的に話し合いに参加し、いじめをなくしていくとする態度を養うのはどうでしょうか。</li> <li>●アンケート結果をいかし、子どもたちの実態に即した目標設定を実践してください。年間当初の計画にしばられず、現状の確認から目標を設定し実践していくことに期待します。</li> <li>●先日、穴水町内を歩いていると、子どもたちから「こんにちは」とあいさつを受けました。鳳至小の子どもたちもできれば、安心・安全のために挨拶を心がけるようになってくれればと思います。</li> <li>●今年度3年ぶりの三夜踊り指導の際、先生方の指導により、「語先後礼」の挨拶ができていたけれど、挨拶してくれる児童は半数だった事が残念でした。自分から挨拶できる子の連鎖が広がることを願います。</li> <li>●児童が楽しく学校に通学できるように更に充実していくことを期待したい。夏休み後の子どもの変化を先生方と見守りたい。</li> </ul>	<p>低 100%A</p> <p>中 93%A</p> <p>高 88%A</p> <p>全 92%A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後も以下の四点を大切にしていく。</li> <li>①年間生活目標を通した集団づくり。</li> <li>②日々の観察、月一回の学校生活アンケート、年三回のいじめアンケートを柱に、いじめや、子ども達の困り感の早期発見、早期対応に努める。</li> <li>③年三回の教育相談を柱に、子ども達の心に寄り添う時間を大切にする。</li> <li>④生徒指導に関する教職員の共通行動を今後も継続していく。（教室環境の整備、子供達と接するうえでのポイント等）</li> <li>○「みんななかよく」ではなく「お互いの違いを認め合う」という考え方を大切に、子供達に指導していく。</li> </ul>	A(100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員の共通理解の上で、共通行動をとることは、子どもたちから見てもブレがないということであり、とても良い認識だと思えます。実践は効果をもたらします。頑張ってください。</li> <li>●国勢調査員の総務省研修会でのお話ですが、対象者と対面する場合、こちらの身なり・顔の表情・挨拶の仕方での「第一印象」が調査の協力を得られるか否かに繋がるので心得てほしい！とお話がありました。何をすることも挨拶は大事なもので、小学生の時から挨拶が癖になり、自然とできるようになるのは素敵ですね。まずは我々大人からのアクションですね。</li> <li>●子どもたちが楽しく学校へ通学することができ、充実した学校生活を送ることができた。</li> <li>●「みんな仲良く」というぼやっとしたものから、対立を避けるための「対話」を取り入れ「感情のコントロール」につながれば子どもたちの自律心につながると思っています。いろいろな方面から物事を見ることによりいろいろな考え方が分かると思うので、ICTを活用するなど積極的に挑戦してください。</li> <li>●毎年のことなのかもしれませんが、運動会以降まとまりが出てきた感じがします。学校が楽しいと感じている子どもが多いことは良いことだと思います。子どもたちに将来の目標を持たせることが、1つの学習意欲になる気がしますが、小学生では無理な話なのではないでしょうか？</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活リズムの改善                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の調査</li> <li>・毎月の実態把握と意識付け</li> </ul> </li> <li>○SNS 機器利用の指導                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホ調査</li> <li>・全学年における学級指導</li> <li>・保護者への発信</li> </ul> </li> </ul>		生活力向上部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が自らの生活を意識し、生活を改善しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□保護者アンケート 就寝時間を守っている児童の割合（低学年9時半、中学年10時、高学年10時半）</li> </ul> <p>A:70%以上 B:60%以上 C:60%未満</p>	<p>夜9時以降のゲーム・ネット・SNSをしない 保 62%B</p> <p>ねる時刻を守っている 保 68%B</p>						

												ときがあります。子どもたちの生活リズムを作 ってやることも大切だと思います。
	○児童の企画運 営による特別 活動 ・全校集会 ・運動会 ・各委員会の活 動 ○成果の「見え る化」による 自己肯定感の 高揚 ・写真、動画、キ ャリアパスポ ートなどでの 振り返り	特別活動	○児童が自 分達で決 め、協力 して活動 する場を つくり、 それが満 足感や達 成感につ ながって いる。  □児童アンケート 「学級や学校をよ りよくするた めに自分たちで考 えて行動してい る」と答えた児 童の割合  A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満	低 100%A  中 96%A  高 84%A  全 92%A	○発達段階での差 はあるものの、 高学年の割合が 低・中学年に比 べると低い。 色々な場面でリ ーダーが生まれ る働きかけをす るなど、特別活 動の充実を図 る。 ○事前指導では 「目的意識」「相 手意識」と「自己 決定の場」を大 切にする。そし てそれを教師は 支え、見守る姿 勢を大切にする。 ○事後指導では、 振り返りの時間 を大切にする。 その際、職員だ けでなく保護者 や地域の声も届 くようにする。	A(80%) B(20%)	●取組及び課題解決に向けた改善策におい て「保護者や地域の声が届くようにする」 とありますが、具体的にどのようにする かを示せるようにしていただきたいで す。 普段の授業で、全体の前で子供に説明さ せると時間がかかり予定どおりに授業が 進まない。教師が説明するほうが授業が スムーズに進む場面もあると思います。 子供が説明できる場面をつくる。活動を 任せるときは前もって課題、時間、方法 を子供に伝えておく。子供の活動状況を 把握して、励ましたり、認めたりする。 子供の意見を聞いて、子供に任せる、学 習者を尊重する授業づくりにより自己肯 定感が高まり、さらに意欲的に授業に参 加できるようになると考えます。 ●「伝える」ことの力を持ってほしいです。 ●高学年にとって金管鼓隊や運動会は低学 年の見本となる行動をする良いチャン スですね。期待に届いてくれると思いま す。 ●運動会をきっかけにみんなで何かをやり 遂げるといふチームワークの大切さ、そ こから得る達成感に期待します。高学年 の割合が低いですが、低学年・中学年の 刺激になるかと思っています。	低 92%A  中 98%A  高 83%A  全 91%A	○様々な行事を通して、達 成感や高学年のリーダ ーシップが発揮した部分 があった。  ○行事ごとのキャリアパス ポートの有効活用のみな らず、6年では、中学校 に向けての身に付けたい 力、それに向けての今の 自分がやるべきことを考 える時間を確保すること ができた。(小中連携)  ○行事でのリーダーシッ プを普段の委員会や学校 生活でも発揮させる場 面、声掛けを増やして いく。特に委員会では 自発的な活動について、 やらせてみて、そこ から学ばせることも大 切である。	A (100%)	●「見える化」を評価します。定着してきてい ると感じます。はげます・認め合うを大切 に続けてください。 ●児童数の減少により、委員会の総合が 行われたけれど、思うように活動できな かったので、来年度は元に戻して、4～6 年生で体制を組み直すのは、良い案です ね。気づきがあり、実行して みて良かったです。 ●金管鼓隊や運動会では、みんなで何か をやり遂げるといふ気持ちが伝わりました 。「喜怒哀楽」を楽しませてもらいま した。チームワークの大切さを、ひとり ひとりが感じとれたのではないと思 います。 ●成功体験を積み重ねたいと考えがち ですが、子ども主体で取り組んで取 組んだ結果、うまくいかず1年が過ぎ ても、それも学びの1つだと思います 。なぜ失敗したのかを子どもたちが 振り返ることも学びの1つだと思 います。このことにより次の活動や 学年につながると思 います。 ●生徒数が減っていくなかで、強い リーダーシップを発揮できるかとい うことになると、なかよし状態のよ うな形になってしまっは望めない と思います。高学年には、低学年 の手本となれるような姿を見せる ことが1つの形ではと 考えま す。	
	○自己の生き方 について考 えを深め るための 道徳の授 業力の向 上 ・問いの 工夫 (メイン の問い、 切り返 しの問 い) ・視点 を持た せた話 し合い、 振り返 り	道徳推進	○児童が自 分自身の 生き方 について 深く考 えよう として いる。  □児童アンケート 重点項目 について ふり返 り、肯 定的な 意見の 児童の 割合  A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満	低 96.5%A 中 97.5%B 高 89.5%A 全 89.0%A ※「全」は道 徳に対する共 通質問の割 合  職 71%B	○毎時間後、道徳 検証シートを 用いて効果 的な問 いであ ったか を振り 返し、 次の 授業に 生かす ように する。  ○要請訪問や校 内研修会 の開催 などを 進める 中で、 教員が 児童の 実態や ねらい に沿っ た問い を精 選した り指導 方法の 幅を広 げたり してい けるよ うにす る。	A(60%) B(40%)	●日常的な対面の教育もそう ですし、道徳教育や特別活動 においても、ICTを加えた 取組も加えてみるとよい と考えま す。 AIでは代替できない力 やAIを使いこなす力を 身につけるためにも、「考 え、議論する道徳」を取 り入れることも必要で はないで しょう か。 ●「伝える」ことに加 えて「聞く」ことも大 切だと 伝えて ほしい です。 ●「自己の生き方につ いて考 えを深 める」 とあり ますが 、難し い表 記で すね。 私自身 も反省 してい ます。 ●コロナ禍だからこそ、 道徳教 育が必 要かも しれな い で す。	低 92%A 中 98%A 高 92%A 全 92%A ※「全」は道 徳に対する共 通質問の割 合  職 100%A	○児童の考えや思いを表 出させる際やねらいに 迫るための動画・写 真を提 示する ために ICT機 器を使 用した が、ま だ効果 的な活 用には 至って いない 。どの ような 場面で どのよ うな機 能を使 うのが 効果的 か、実 践を積 み重ね ていく 必要が ある。 ○道徳の授業のみで はなく、 その他の 行事や 日常生 活と結 びつけ ること で、全 教育活 動を通 しての 道徳教 育の充 実を図 る。 ○今年1年の成果や課 題を来 年度に 生かし 、段階 的に道 徳性を 養って いく。 そのこ とで、 目先の 道徳性 でなく 、児童 のこれ からの 人生の 中での 道徳性 や生き 方を徐 々に育 んでい きたい 。	A (100%)	●道徳の取組、良いと思 います。授業の工夫によ り、価値観の変容を生 み出す 重みのある授業を 続けて くださ い。 ●中間 評価に もあり ますが 発問に よって 子ども たちの 思考の 流れが 始まり ます。 検証は 大変で すが失 敗を恐 れず に取 組んで くださ い。 これまで どおり 、子ども たちを 認めて 励まし てくだ さい。 ●個人 的には 、道徳 は評価 するも の、結 果を出 すもの ではな いと考 えてい ます。 大人に なって ひとり ひとりの 考え 方が、 他人や 社会に 関わっ ていく うで、 何が 大切な のかを 気づか せてく れれば 良いと 思っ ていま す。答 えをあ せって はいけ ないと 考え ます。	
学力と 体力の 向上	①問題を 読んで 意味が わかる 工夫 ②ペア やグル ープで 考えを 広げたり 、深め たり する活 動 ③問い の工夫 をする ④スタ ディマ ナーの 徹底	研究	□児童アンケート □職員アンケート  A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満	①児88%A ①職81%A ②児92%A ③児85%A ④児4月(着 べ)84%A 5月(聴 く)82%A 6月(着 べ)84%A 7月(準 備)	○全体では全 て80% を超え ている が、学 年ごと に見る と高学 年が8 0%を 満た ない項 目がいく つかあ る。 特に③ や④の スタ ディマ ナーに 関わる 部分 は改 めて高 学年 での 意識 向上 が必 要であ る。 ○2学 期に向 けて、 「話し 合い活 動」の 充実 を重視 してい く。そ のため に、教 師	A (100%)	●人が話すことを聞く。これ までの取組の成果が出て きていると感じています。 子供たちが出ていく社会 がどうい うふう になっ てるの か な って いう こと を考 えた 教 育を 望 みま す。 凡庸な 90点 の取 組より も60 点でも いい から 夢の ある 挑 戦を し てほ しい と思 いま す。 リスク を恐 れな い で くだ さい。 ●学力 向上 の為、 スタ ディ マ ナー の徹 底に 更なる 努力 を期 待し ま す。 (その 他の 意見 とし て) 本校の 学力 向上 で重 点項 目に 「キャ リア 教育 の重視 」が 述べ られ てい ま す。 人は 目的 があ ると 意欲 も出 、積 極性 も出 ます。 高学 年 では 「あ こが れの 職業 や やり たい 事」 を具 体的 にも てる よう 、道 徳以 外 でも 授 業の 資料 提示 等、 工夫 し地 域の 誇り を持 たせ 、あ こが れの 職業 に なる た め に	①児86%A ①職96%A ②児96%A ③児77%B ④児80%A (1月)	○1学期、年度当初は学級 経営上「聴く」ことに 力を入れることが多く、 教師も児童も意識が高 い。 そこから徐々に意識を させなくともできるよう にさせていくが、やは り、定期的、習慣的に 聞くことに対して教師 の声掛けや児童の評 価をしていく必要がある 。  ○2月には児童同士の 授業参観を設定し、 上級生の授業に取 り組む姿勢や下級 生の楽しく取り組む 姿	A (100%)	●スタ ディ マ ナー が定 着し てい る と感 じ ま す。 こ の積 み重 ねを 崩さ ない よう お願 いし ま す。 ●児童 どう しの 授 業 参 観 は興 味深 い です ね。 来年 度も 実施 でき れば 良い です ね。 ●人の 話を しっ かり 聞 く、 しっ かり 伝 える 。と い う 基 本 的 な こ と が で き る よ う に な り ま し た 。 あと 大勢 の前 で ど う 伝 え る か と い う こ と に 、 こ れ か ら 期 待 し ま す。 成 長 の 過 程 も あ り ま す が 、 し っ かり と 自 分 を も っ て ほ しい です ね。 ●子 ども たち に 授 業 が 「分 かる 」と 「楽 しい 」の 調 査 を 行 い 、 学 び の 主 体 と す る 子 ども たち の 視 点 で 授 業 を 振 り 返 る 一 助 と す ると も に 、 分 析 を し て 今 後 に つ な げ て み る も の よ い と 思 いま す。 ●読 むこ と、 それ を理 解 する こと 、言 葉と して 伝 え るこ と、 もち ろ ん相 手 の言 うこ とを 聞 くこ と も 大 切 な こ と だ と 思 いま す が 、 SNS 等 で短 い 単語	

			る。		83%A	は、良い話し合いの仕方をイメージしておくことや、話し合う際の視点を明確にしていく。また、必要感のある場面で話し合いを設定するよう授業計画を吟味する。		「今から頑張る」という意欲づけを工夫してください。 ●相手の意見を聞き、しっかり話す。互いを尊重できる人に育ってほしいです。 ●「話し合い」から協調性も学んでほしい。実社会で、自己主張が強く協調性に貧しい人とは仕事がやりづらい事を実感しています。 ●「話を聞く、しっかり伝える」という基本的なことを教えてほしいです。		を見たことで、来年度に向けての目標をイメージしたり、今のクラスに足りないところを再認識できたりした。		でやりとりする時代になってきています。どうか、しっかり伝えるにはどうすれば良いかを指導してください。
	○持久力の向上 ・準備運動時の補強運動 ・主運動につながる準備運動 ・マラソントイム	体育担当	○日々の取り組みによって、児童の持久力の向上。	□シャトルラン測定値 前回比 +5回 (3～6年生) A:3～4学級 B:1～2学級 C:0学級	4学級中 2学級 B	○体育の授業の中で、EXダンスや補強運動に継続した取組で本校児童の持久力の向上の素地を育む。 ○児童会企画の運動集会を行い、運動する習慣の必要性を啓発する取組を進めていく。	A(80%) B(20%)	●ICTを加えた取組も加えてみるとよいと考えます。(例:シャトルランの画像を撮ってみんなでどうやったら多くできるようになるかを考える) 2年前は体育の研究指定校でした。新たなことを始めるより続けることの方がはるかに難しいと思います。様々な優れた教育実践やデータ等が蓄積されていても、使うことが少なければもったいないなと思います。 ●継続した補強運動は大いに評価します。 ●将来の話となりますが、大学への進学を考える頃になると、国公立の受験ともなると持久力が必要になってきます。体力的にも精神的にも。「あきらめない」ことが大切です。 ●EXダンスに興味があります。運動会が楽しみです。 ●児童の持久力の向上を目指し、継続することで力になり、自信にもつながると思います。	4学級中 2学級 B	○準備運動に EX ダンスを取り入れることで、運動への意欲を向上させる。 ○低学年においては、体づくり運動を重視する。(体幹を鍛える) ○授業開始時に時間走を実施することで、走ることを習慣化させる。 ○下半身の筋持久力を向上させたり、体幹の安定性を向上させたりするためのトレーニングを継続的に取り入れる。 ○児童会企画の運動集会を行い、運動する習慣の必要性を啓発する取組を進めていく。	A (100%)	●補強運動の取組を評価します。課題解決に取り組んでいると思います。 ●EテレのEXダンスは難易度が高く、心配していたけれど、運動会でのEXダンスは体操のストレッチの要素もあり、みんな楽しそうに身体を動かしていたので良かったです。一緒に踊りたくなりました。 ●フロントブリッジは、私もたまに家でやっていますが、回数を重ねると少しずつ長くできるようになります。児童のみんなに負けないように私も実践していきたいです。 ●運動が不得意な子もいますが、みんなで楽しく声を掛け合ってトレーニングをすることで継続することができて、自信にもつながったと思います。 ●基礎体力向上は、家庭の協力も必要ではないかと考えます。健康カードを活用して家庭でも運動する機会を設けたらどうでしょうか。今年度もスポーツ選手の講演がありました。きっかりになる良い取組だと思います。児童会企画の運動集会とありますが、体力・運動能力調査で課題となった種目について、昼休みに児童主体で運営する中庭マラソン大会や通年で体育館でのシャトルラン大会を開催するなど楽しく参加できるようにするとよいと思います。また、何がウイークポイントなのか体育の授業の最後に子どもたちに振り返りをさせることもよいと思います。 ●自宅に帰って、外で遊ぶことが少なくなって、体力的には弱くなってきていると思います。
職員 の協働体制の確立	○職員の能力の開発や人材育成 ・若手教員育成プログラム ・校内研修	管理職	○校内研修が適切に行われ、各部会や推進委員会が、組織的な人材育成の視点で行われている。	□職員アンケート 「校内研修が業務に活かされていると感じる」教員の割合 A:80%以上 B:60%以上 C:60%未満	職 100% A	○校内研修の充実により、日々の授業や各担当への業務改善に生かされていることを実感しているが、今後も業務が特定の職員へ偏ることのない配慮は継続する。研修に対して前向きに取り組んでいる姿も日々の姿から感じる。 ○若手教職員らが自らのニーズに対応した研修内容を計画的に進めており、今後も継続し、効果的な人材育成を進めていく。	A (100%)	●優れた教師の経験や勘、匠の指導技術を、言語化・可視化・定量化するなどして、効率的・効果的に伝承できれば良いなと思っています(暗黙知→形式知)。経験や勘や教員の個人プレーにだけに頼らず、教育データも積極的に活用してください。 ●研修と修養は教職員の努めです。改善策を進め、力量を伸ばすことに期待します。 ●コロナ禍の中でご苦労されていると思います。子どもたちのためによりしくお願いします。 ●校内研修は魅力的なシステムですね。1つのやり方に固まらず、改革していくことは素敵だと思います。 ●GIGAスクールは先進的に取り組んでいた。今、保持しているスキルを更にスキルアップできるような環境を整えてほしい。	職 100% A	○若手教員育成プログラム研修は中間評価同様、ニーズに応じた研修内容となっており、学級経営・担当業務・学校運営に生かされている実感を得ている。石川県教員総合研修センターのデータも活用し、研修内容を充実させた。 ○教務主任・研究主任を中心にして全体研修会を継続的に開催しているが、終礼の短時間を利用したミニ GIGA 研修会を2学期から実施し、スキルアップに努めている。	A (100%)	●校内研修が充実していると感じました。学校に一体感感じます。現場で育てるという意気込みを大切に。研修に終わりはありません。頑張ってください。 ●GIGA スクールの研修も大事ですが、社会ではコミュニケーション力(プレゼンテーション力)も大事だと考えます。プレゼン教育に関する研修もどんどん参加して、子どもたちの活動に活かしてあげてください。 ●山岸先生、コロナ禍の中での学校の運営はご苦労だったと思います。ありがとうございます。また、同じ状況でご苦労された先生方にもお礼を申し上げます。どうもありがとうございます。
	○教職員の働き方に関する意識の改革 ・定時退校日の設定 ・業務の効率化(マークシートアンケートの活用やエクセル)		○職員は終了時刻を意識して計画的に業務を進めている。	□職員アンケートと勤務実態 時間外勤務時間が月80時間以上の職員の割合 A:30%未満 B:50%未満 C:50%以上	職 21% A	○講師不足のため、今年度の本校の教職員の定数は1不足の状態。マンパワーが不足することで個々の担当業務時間が増加し、教材研究に充てる時間が勤	A (100%)	●現状、どこの学校でも新卒の先生や講師の先生にまで多くの仕事が与えられているのが実情ではないでしょうか。個々に退校日を設定すると、土日に出勤される方が増えるような気がします。今年度から校務支援システムが導入され学校内のシステム化が進むと考えています。学校と保護者等間のデジタル化も働き方改革につながります。 ●以前の学校評価委員会でお話を伺いましたが、校務分掌組織の再編(スリム化)、	職 0% A ※令和4年9月～令和5年1月までの平均時間(80時間以上の割合)	○担当によっては、いしかわ道徳教育推進事業研究発表会(11月)をはじめとする学校行事への業務で、勤務時間外勤務が月80時間を越えてしまう職員がいたが、個々に取組の見直しと軽重をつけて業務を進めることができるようになってきている。 またICTを活用した会	A (100%)	●1人不足の1年でしたが、皆さんよく取り組みました。ここは、改善の余地もあるでしょうが、現場での工夫がわかります。更に高見を目指して頑張ってください。 ●健康第一です。日々、何かに追われますが、1年休の取得もしながらリラックスしてください。 ●学校における働き方改革については着実に取組が進んできていることがわかります。教育の質の維持向上を図るためにも、より一層、保護者・地域の御理解・御協力を得ながら、教育委員会と学校が連携していかなければならない

	ルを使ったデータ管理と共有など)				務終了時間後になっている状態。  ○学校としての定時退校日ではなく、個々に定時退校日を設定するなどの対応を進めていく。		各種会議（職員会議・校内研修等）の精選に加え会議のペーパーレス化。学校と保護者間の文書や出席・遅刻等の連絡（輪島中学校で実施）、各種アンケートのデジタル化。採点支援システム（EdLog など）の導入。日課表の見直し。業務改善に係る会議の実施（ボトムアップ）。年次休暇等の計画的な取得など、攻めの学校経営（新たな教育活動を積極果敢に導入するなど）を行っている学校ほど在校等時間の減少率が高い傾向にあると聞きました。  ●学校はよくやっています。 ●目に見える退校時間は大切ですが、自宅の研究・教材準備の時間が見えてきません。無理をなさらないようにしてください。 ●時間内に業務が終了できるように、また持ち帰ることがないようにしたいですね。ノー残業デーを設定するなどし、取り組む。		議を開催することで、児童一人ひとりに寄り添う時間や教材研究に充てる時間が徐々に生み出せている。 ○冬季休業中に関しては職員個々の業務の進捗状況を把握して、年休の取得を勧めた。今後も職員の心身の健康状態に配慮していく。		と思います。 次年度は、年度当初の業務の平準化に着目されたいらうでしょうか。 ●先生方には、メリハリのついた ON・OFF の切り替えをして乗り切ってください。
	○子どもの様子をタイムリーに配信 ・学校 HP の更新 ・月 2 回以上の学級だより	情報担当	○職員は児童の様子を地域や保護者に積極的に配信している。  □学級だより発行数 月 2 回以上学級だよりを発行した学級の割合  A:90%以上 B:80%以上 C:80%未満	□学級だより発行数 月 2 回以上学級だよりを発行した学級の割合  100% A  職 90% A  保 95% A	○各学級担任による月 2 回以上の学級だよりの発行は、継続する。学校 HP 更新には、学年差があるため、更新状況を確認し、更新が少ない学年には、呼びかけを行っていく。	A (100%)	●毎月の学級だよりの作成ありがとうございます。子供たちの学校での様子がよく分かります。大変でしょうが今後ともよろしくお願いたします。働き方改革の一環として、お知らせのデジタル化もご検討ください。学年懇談会などの機会を使って書かれてあることを保護者に口頭で説明して理解を深めていただきたい。 ●今でも学校はよく発信しています。改善案に賛成です。 ●保護者にしっかり協力をお願いしてください。 ●マンパワー不足で月 2 回のお便りは大変だと思いますが、継続してほしい。 ●学校 HP の更新、楽しみにしています。お忙しいとは思いますが、続けていただきたい。	A (100%)	○学級だよりについては、どの学級も定期的に発行することができており、児童の様子をタイムリーに発信することができている。 ○学校 HP 更新の学年差は改善されていない。月 2 回以上など目標を決めたり、HP 更新週間などを設定したりするなど、全職員が意識できるような働きかけが必要である。	A (100%)	●十分に発信していると思います。 ●保護者にとって「安心の源」である学級だよりの定期発行を、来年度もお願いします。 ●HP、時々拝見しております。子どもたちの様子を知ることができ、助かりました。 ●学級だよりは生徒指導の減少につながっていると確信しています。月 2 回でよいので無理をなさらないでください。中間評価からの繰り返しとなりますが、学級だよりのデジタル化も御検討ください。確実に保護者に届きます。学級だよりは担任の先生と保護者をつなぐ大事なツールです。 HP の更新に関する学年差は、個人的には問題ないと思います。学年だより同様、月 2 回程度で充分だと思います。 ●日常の授業を終えてからの便りの作成には、ご苦労されていると思います。無理なく、多くの事を載せることはせず、必要なものにしぼって便りを作ってください。
地域連携と貢献	○小中・小小連携 ・学習規律・クロームブックのきまり共有 ・テストの出題内容 ・教材・指導案の共有	各主任	○中学校や他小学校との情報交換が実施されている。  □職員アンケート「生徒指導、学習指導等の情報共有が行われている。」と答えた職員の割合  A:80%以上 B:60%以上 C:60%未満	職 55% C	○輪島中学校校下である各小学校と輪島中学校とが 1 学期に 1 回 (Meet)、夏季休業中に 1 回 (対面)、小中連絡協議会を実施し、共通取組を各主任が調整し実施している。  ○職員個々のアンケートから授業力向上のために他校への研究授業参観を望む声がある。参加体制を改善していく必要があり、教務主任を中心に個々のニーズにあった研修会への参加を 2 学期以降に実施する。	A (60%) B (20%) C (20%)	●小学校から中学校への連携について、保護者が当事者意識を持つようになるように期待します。輪島中学校では「時場礼」の取組をしています。スタディマナーの取組とリンクできれば良いですね。 ●小中・小小の連携はもっとやって良いと思いますが、教育環境(職員数・コロナ禍・新カリキュラム他)を考えるとやむをえないと思います。少ない機会でも濃い内容で各校が実践を共有できるよう工夫してください。 ●コロナ禍でするので無理をせず行ってください。 ●今年度の三夜踊り指導において、6 年生は前回の 3 年前は 3 年生だったので、殆ど覚えていないだろうと思っていましたが、その集中力に驚かされました。また、自分たちで数を数えながら踊っているとき、元気が良すぎて太鼓のリズムよりずいぶん早くなりました。でも、一番の目的である楽しそうに、のりよく踊ってくれている児童が多く見られて嬉しかったです。ただ、今まで鳳至小は「三夜」大屋小は「まだら」と言われてきたように三夜の囃子方も全て熟すことができなかつたのがさびしいです。学校の特色の 1 つが消えかかっているのですね。 ●評価が低いですが、少しでも改善できたら良いですね。業務の多さ、お察しします。	職 88% A	○1 学期に引き続き、Meet や集合型での小中連携協議会の実施により、小中学校の情報交換(生活習慣・学習規律・自主学习など)をし、共通取組を進めている。  ○小中学校以外に、輪島高等学校の取組について本校職員が授業を参観したり、英語教育について情報交換したりすることができた。高等学校との連携も今後継続していく。  ○三夜踊りの伴奏や踊りを総合的な学習の時間や音楽科の中で扱うことも検討していく。  ○社会福祉協議会との連携をし、ボランティア推進事業に関わる内容をカリキュラム化する。また、公民館との連携で教育活動を充実させる。	A (100%)	●幼・保・小、小小、小中、小中高の連携は鳳至小の子どもたちを育てるのに必要な連携です。回数や形式的で終わらず、共通の取組を、全職員が理解し、実践も全職員が行うことが肝要だと思います。 ●図書室近くの廊下に写真とともにゲストティーチャーの授業風景や内容が掲示されていて興味深く見学しました。保護者の方々にとっても、他の学年の事も知ることができそうです。 ●Meet や Zoom に関して、自分たちも不慣れな部分でもあります。段々と定着していくことと思います。 ●今年度は輪島中学校への見学ができました。大変子どもたちには刺激になったようです。継続されることを望みます。ボランティア推進事業に関し、鳳至っ子見守り隊の方を GT として招へいすることも御検討ください。 ●コロナ禍での生徒・児童の交流はむずかしい事だったのでしょうから、これからの活動に期待します。街に出てゆく活動もままならなかったと考えられます。来年以後、子どもたちが学校外活動ができますよう願っています。